

| 科目名 | 安全心理学特論 | | D1-207 | 担当教員名 | 石松 一真 |
|------------------------|--|---|---|---------|----------------------|
| 単位数 | 2単位 | | 選択 | 配当年次 | 1年次・第2 Semester (通期) |
| 曜日・時限 | 木曜日・6限目 | | 教室 | オンライン授業 | |
| 授業概要 | 本講義では、事故の防止や低減対策、安全の実現を考える上で、人間側の要因(人的要因)に焦点をあて、ヒューマンエラーの理解、防止・軽減に必要な知識や方法論の習得を目指します。主に認知心理学の視点から、我々の行動の基盤となる人間の情報処理について取り上げ、“To err is human”の所以について学びます。また、講義内での多方向のディスカッションを通じて、論理的に‘考える’力の育成に努めます。 | | | | |
| 到達目標 | 1) 人間の認知・行動の仕組みや特性について説明できる。 2) 簡単な実験やデモ等を通して、認知のメカニズムを探究する上で必要となる方法論を理解することができる。 3) 習得した知識や方法論を実際に活用できる。 4) 論理的に‘考え’、表現することができる。 5) 問題解決に必要な新たな視点や独自の視点を獲得することができる。 | | | | |
| 回 | 日程 | 見出し | 内 容 | | 実践的な授業方法 |
| 1 | 9/30 | オリエンテーション | 安全心理学の考え方や医療安全管理学における安全心理学の位置づけを説明します。また簡単な実験を行い、データ収集および簡単な集計を行います。[実験][ディスカッション] | | ○ |
| 2 | 10/7 | ヒューマンエラー(1) | なぜ人は誤るのかについて考えます。身近な問題から航空、鉄道、医療分野で起こった重大事故等について取り上げます。[ディスカッション] | | ○ |
| 3 | 10/14 | ヒューマンエラー(2) | ヒューマンエラーについて考えます。ヒューマンエラーの定義や分類、分析手法等について取り上げます。 | | |
| 4 | 10/21 | 人間の情報処理特性(1) | 人間の情報処理について考えます。外界からの情報の受容器となる感覚や知覚について取り上げます。 | | |
| 5 | 10/28 | 人間の情報処理特性(2) | 認知、特に視覚系の仕組みや視覚認知について取り上げます。[ディスカッション] | | ○ |
| 6 | 11/4 | 人間の情報処理特性(3) | 注意(選択的注意、分割的注意、抑制機能、持続的注意等)について取り上げます。[ディスカッション] | | ○ |
| 7 | 11/11 | 人間の情報処理特性(4) | 記憶の基礎や測定方法について取り上げます。またオリエンテーション時に行った実験について取り上げ、記憶の測定方法と結果の解釈について理解を深めます。 | | |
| 8 | 11/18 | 人間の情報処理特性(5) | 技能の習得や判断等に関わる学習・思考について取り上げます。双方向のディスカッションを通じて、学習と思考に関する理解を深めます。[ディスカッション] | | ○ |
| 9 | 12/2 | 人間の情報処理特性(6) | 人間の情報処理に影響を及ぼす要因について取り上げます。 | | |
| 10 | 12/9 | 認知的加齢 | 認知機能に生じる加齢の影響、高齢者の注意・認知特性、機能低下と機能補償、認知機能の維持、改善について取り上げます。 | | |
| 11 | 12/16 | 事例に学ぶ(1) | 交通場面、産業場面における事故およびヒューマンエラーに関する講義、およびグループワークを行います。[グループワーク] | | ○ |
| 12 | 12/23 | 事例に学ぶ(2) | グループワークの成果を発表し、多方向のディスカッションを行います。その後、医療場面における事故およびヒューマンエラーについて取り上げます。[ディスカッション] | | ○ |
| 13 | 1/13 | ヒューマンエラー(3) | コミュニケーションの失敗、組織に起因するヒューマンエラーについて取り上げます。事例等を通して、コミュニケーションの成立を齟齬する要因について考えます。[ディスカッション] | | ○ |
| 14 | 1/20 | ヒューマンエラー(4) | ヒューマンエラーの予防とその対策について考えます。多角的な理解を促進するため、多方向のディスカッションを行います。[ディスカッション] | | ○ |
| 15 | 1/27 | まとめ | 受講生からの質問を受けながら、認知・行動のメカニズムに基づいた事故の防止や安全の実現について、まとめを行います。[ディスカッション] | | ○ |
| キーワード | | ヒューマンエラー、ヒューマンファクター、認知機能、情報処理、認知・行動のメカニズム | 履修条件 | なし | |
| 教材等 | 教科書(要事前購入) | 教科書は特に指定しない。講義で使用する資料は適宜配付する。 | | | |
| | 参考書(任意購入) | 講義内で紹介します。 | | | |
| 成績評価方法(%) [評価のポイント] | ①定期試験(70%)、②講義内レポートおよび討議への参加・貢献度(30%)、再試験の実施は1回のみとします。[習得した知識や方法論を適切に活用し、論理的に表現できているか。] | | | | |
| 授業時間外に必要な学修 | 各回で学んだ内容を次回までに復習しておくこと、講義までに配付資料に目を通しておくこと、必要に応じて講義内で紹介した参考書を読み、理解を深めることが望ましい。 | | | | |
| 学生へのメッセージ | 講義内での質疑応答への積極的な参加を期待しています。人間の認知・行動の特性を理解し、ヒューマンエラーの予防・防止対策、安全の実現について考えていきましょう。 | | | | |

※ 授業の日程については変更する場合があります。